

実用新案登録願住品

(4,000円)

昭和 5年 1 月3 F

特許庁長官川原能雄 殿 美

1. 考案の名称

・紹介 :蒸気エンジンのシリンダヘッド

2. 考 案 者

住 所 神奈川県横浜市磯子区中原 3-5-20

氏名 平 林 雄 二

3. 実用新案登録出願人

住 所 神奈川県横浜市神奈川区宝町二番地 氏 名 (399) 日 産 自 動 車 株式 会 社 (名 称) 代表者 石 原 使

4. 代 理 人

〒104 東京都中央区銀座8丁月10番8号 銀座8-10ビル3階

TEL 03-574-8464(代表)

5. 添付書類の目録

氏

- (1) 明 細 書 (2) 図 面
- (2) 図 面 (3) 顧 曹 副 本
- · (4) 委 任 状 (5)

名

1 通

1 通

1 1 通

通 51 1005

\$2 (a)

明 細 書

考案の名称

蒸気エンジンのシリンダヘッド

実用新案登録請求の範囲

シリンダへッドの膨脹室側に凹部を形成し、酸凹部と所定の間隙をもつてシリンダへッドとシリンダプロックとの間に板部材を挟持し、凹部との間に断熱空間を形成するようにしたことを特徴とする蒸気エンジンのシリンダへッド。

考案の詳細を説明

本考案は蒸気エンジンのシリンダへッドで特に、 膨脹室側に断熱手段を有するものに関する。

従来の蒸気エンシンにおいては、第1図でも解るとおりシリンダヘッド1には単なる蒸気通路 2 と該通路を開閉するパルプ 3 及びリリーフパルプ 4 等が設けられ、ヘッドポルト 5 を介してシリンダフロック 6 に組付けられている。

従つて、鋳鉄等の金属からなるシリンダへッド 1の下面が直接、膨脹室(シリンダ)7の上壁部を 形成することになり、このために膨脹室 7 の蒸気

の熱がシリンダへッド1表面から大気中へ多量に 放散され、蒸気の熱エネルギーを有効に仕事に転 換できないといり間磨点があつた。

また、シリンダへツド1の下面が均一な高さで 形成されているため、ヘツドガスケット 8 とシリンダへツド1及びシリンダブロック 6 間の面圧を 十分に高くしなければ、膨脹室 7 の蒸気ガスが洩 れるという問題もあつた。

本考案は、このような従来の問題点に着目して なされたもので、シリンダへッドの膨脹室側に断 熱層を形成することにより上記問題点を解決する ことを目的としている。

以下、本考案を図面に基づいて説明する。

第2図は本考案の第1実施例を示す要部断面図であり、シリンダヘッド10はヘッドガスケット 26を介してシリンダプロック12に対してヘッドボルト11により組付けられている。

シリンダプロツク12のシリンダ室(膨脹室) 13は、プロツク12に固着したシリンダライナ 14によつて囲まれ、このシリンダライナ14内 にピストン 1 5 が上下に摺動自由に収装されている。

また、シリンダライナ14の所定位置には排出 孔14aが複数形成され、図示しない復水器と連通する蒸気排出通路にシリンダプロック12の環 状ポート12aを介して通じている。

前記シリンダへツド10には、リリーフパルプ 16及び図示しないポイラーと連通する蒸気吸入 ポート17が形成されている。

蒸気吸入ポート17には、ポートライナ18a, 18b,18cが各々ポート17の形状に合せて 挿入されると共に、該ポート17をエンジン回転 に連動して開閉制御するベルブ19が組付けられ ている。

ことまでは通常の蒸気エンシンと同様であるが、本考案の特徴は前記シリンダへッド10の下面 (つまり、膨脹室13側)に断熱層を形成することにある。

そのために、シリンダへッド10の下面には膨 服室13のポア径より若干大きい円形の凹部20

が形成され、該凹部 2 0 に磁性体からなる断熱板 2 1 が収装される。

断熱板 2 1 は、上記凹部 2 0 と略同径の円形状に形成されると共に、その板厚 h₁は一例として凹部 2 0 の深さ h より 5 0 μ 程大きく形成される。

また、上面(シリンダヘッド10側)には縁部を残して円形の幾い凹部22が形成される。

従つて、この断熱板21を図のようにシリンダ ヘッド10に組付けた場合、シリンダヘッド10 との間に断熱空間23が形成される。

この空間23は、ポートライナ18 a , 18 b , 18 c の接合部より洩れた静止蒸気により満され、いわゆる蒸気ジャケットとなり、膨脹室13 側との圧力パランスが保たれる。

そして、この断熱板21の組付けは、断熱板21 の所定位置に形成したリリーフバルブ16の先端 部跃合穴24と、ポートライナ18cの先端部に 嵌合するため予め断熱板21の貫通孔25に圧入 されたガイド筒27とにより位置決めされてシリ ンダヘッド10の凹部20に挿入される。 との時、断熱板21は磁性体であるため、手でシリンダへッド10側に押しつけるだけでシリンダへッド10に半固定される。

このように断熱板21を取付けたシリンダヘッド10を、ヘッドガスケット26を載置したシリンダプロック12上に位置決めしてからヘッドボルト11を締め込めばシリンダヘッド10の組付け作業は終了する。

この時、断熱板21の下面が前述したようにシリンダへツド10の下面より若干突出しているため、ヘッドガスケット26の面圧は、ポア周り(即ち、ポア径と断熱板21の外径との径差が作る部分)のみ極端に上昇し、ガス洩れを有効に防止する。

このように本実施例によれば、シリンダへツド 10の下面に蒸気シャケット(断熱層)23を簡単に形成でき、膨脹室13からシリンダへツド 10表面への放熱量を減らすことができる。

尚、前記断熱板21は電磁チャックを用いて機 核加工することにより、加工と同時に断熱板21

を磁化でき、断熱板21を磁化するための特別な工程も不要であると共に、板厚が薄くとも容易に高精度の機械加工ができる。

次に、第3図に示すものは本考案の第2実施例を示すもので、前記断熱板21をシリンダヘッド10に対してポルト28で固定すると共に、断熱空間23にポリイミドやセラミックス等の断熱材29を収装した例である。

この実施例によれば、断熱板21'は耐熱性、耐腐食性に富む板であれば非磁性体であつても良く、安い材料の使用も可能となる。

また、断熱空間23には熱伝導率の低い断熱材29が挿入されるので、断熱板21'自体の熱伝導率には気を使わなくとも良くなるといり利点がある。

以上説明したように本考案によれば、簡単な手段により、蒸気の熱の大気への放散と蒸気ガスの 洩れを间時に解決できる蒸気エンジンのシリンダ ヘッドを提供できる効果がある。

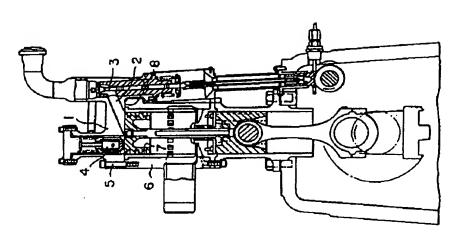
図面の簡単な説明

第1図は従来の蒸気エンジンの断面図、第2図は本考案の要部断面図、第3図は同じく他の実施例の要部断面図である。

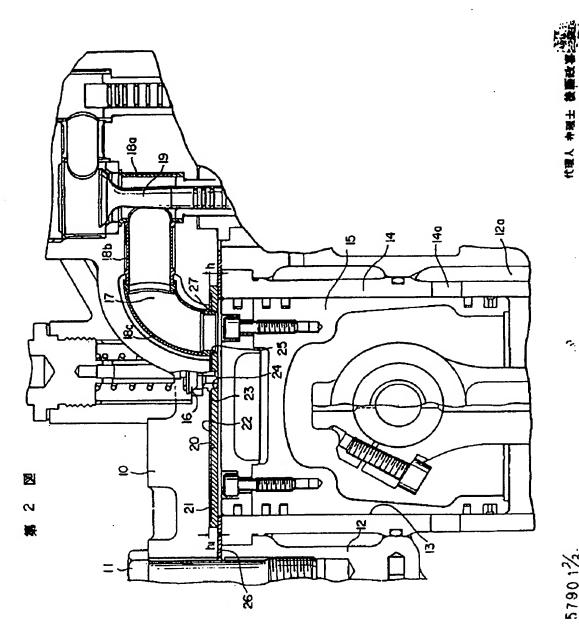
10 … シリンダヘツド、13 … 膨脹室、20 … 凹部、12 … シリンダプロツク、21,21′… 断熱板、23 … 断熱空間。

寒用新案登録出願人 日産自動車株式会社 代理人 弁理士 後 藤 政 喜

57901/3

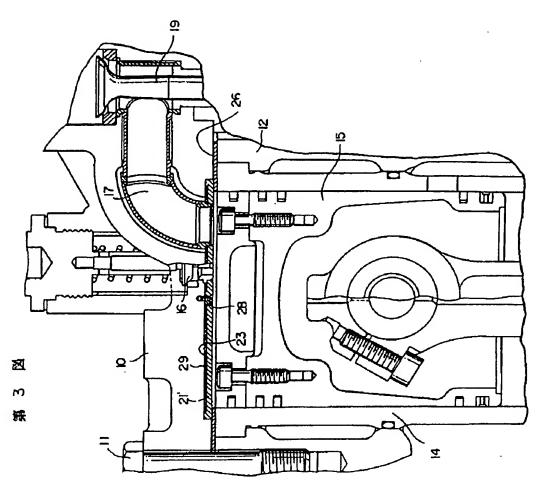


丒



57901%.

2,5



5780

(1) 大阪大 小阪士 牧原的事。 (1) 大阪大 小阪士 牧原的事。 (1) 大阪

This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

BLACK BORDERS
☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
☐ FADED TEXT OR DRAWING
☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
□ OTHER.

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.